

東洋紡岩国事業所において石炭火力発電所の燃料転換により CO<sub>2</sub> 排出量 8.0 万トン/年削減に貢献  
～天然ガスと RPF を燃料とする低炭素発電所の建設工事を開始～

2021 年 11 月 30 日

大阪ガス株式会社

Daigas エナジー株式会社

大阪ガス株式会社(社長:藤原正隆、本社:大阪市中央区、以下「大阪ガス」)の 100%子会社である Daigas エナジー株式会社(社長:井上雅之、本社:大阪市中央区、以下「Daigas エナジー」)は、東洋紡株式会社(社長:竹内郁夫、本社:大阪市北区、以下「東洋紡」)の岩国事業所(山口県岩国市)において、石炭火力発電所(1972 年竣工、10,480kW)から天然ガスおよび RPF\*<sup>1</sup>を燃料とする火力発電所に更新する工事を 2021 年 11 月に着工しましたので、お知らせいたします。新設する発電所は 2023 年 10 月に運転開始を予定しています。

なお、本件は、経済産業省の「令和 2 年度 省エネルギー投資促進に向けた支援補助金(エネルギー使用合理化等事業者支援事業)」\*<sup>2</sup>に採択され、東洋紡と共同で実施するものです。

本件では、岩国事業所内に、天然ガスと RPF を燃料とし、省エネ、低炭素化に資する高効率発電システムをエネルギーサービス契約\*<sup>3</sup>により新設し、電気と熱を供給します。新設する発電所により、脱石炭の実現と本システムから発生する高温排ガス、LNG の冷熱を有効利用する省エネ制御を行うことで、年間約 8.0 万トンの CO<sub>2</sub> 排出量を削減し、環境負荷の低減に貢献します。

Daigas グループは、これまでの天然ガス利用拡大の取り組みに加えて、メタネーション\*<sup>4</sup>などによる都市ガス原料の脱炭素化、再生可能エネルギー導入を軸とした電源の脱炭素化によって、「2050 年のカーボンニュートラル実現」を目指しています。

Daigas エナジーでは、産業用・業務用のお客さまがモノづくりの現場で抱える課題や潜在的ニーズを、あらゆる角度から洗い出し、お客さまとともに課題解決策を共創し、地域・社会に貢献する最適なサービスをご提供しています。

今後もグループ全体でカーボンニュートラル実現に向けた技術・サービス開発を行い、お客さまとともに地球規模での環境貢献に寄与する取り組みを推進し、暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループを目指してまいります。

(\*1): Refuse derived Paper & Plastic densified Fuel の略。古紙および廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。

(\*2): 事業者が計画したエネルギー使用合理化の取組のうち、省エネルギー性能の高い設備の導入に要する経費の一部を補助する事業。

(\*3): エネルギー設備をお客さまにご購入いただくのではなく、Daigas エナジーがお客さまの敷地内に設備を持ち込み、お客さまのイニシャルレスを実現することができる契約。

本件では、三井住友ファイナンス&リース株式会社が設備を保有し、Daigas エナジーがリースを受けた上でお客さまにエネルギー加工サービスを実施。

(\*4): 水素と CO<sub>2</sub> から都市ガス原料の主成分であるメタンを合成する技術。

## ■事業概要

事業者	東洋紡、Daigas エナジー
設置場所	東洋紡 岩国事業所内(山口県岩国市灘町1番1号)
設置機器	高効率ガスタービン発電システム、RPF ボイラ、パッケージボイラ、蒸気タービン、LNG サテライト設備
発電出力	16,420kW (既設蒸気タービン 2,880kW 含む、発電所全体の出力)
想定 CO <sub>2</sub> 削減量	約 8.0 万トン/年(2013 年度比)

## ■岩国事業所外観



以上